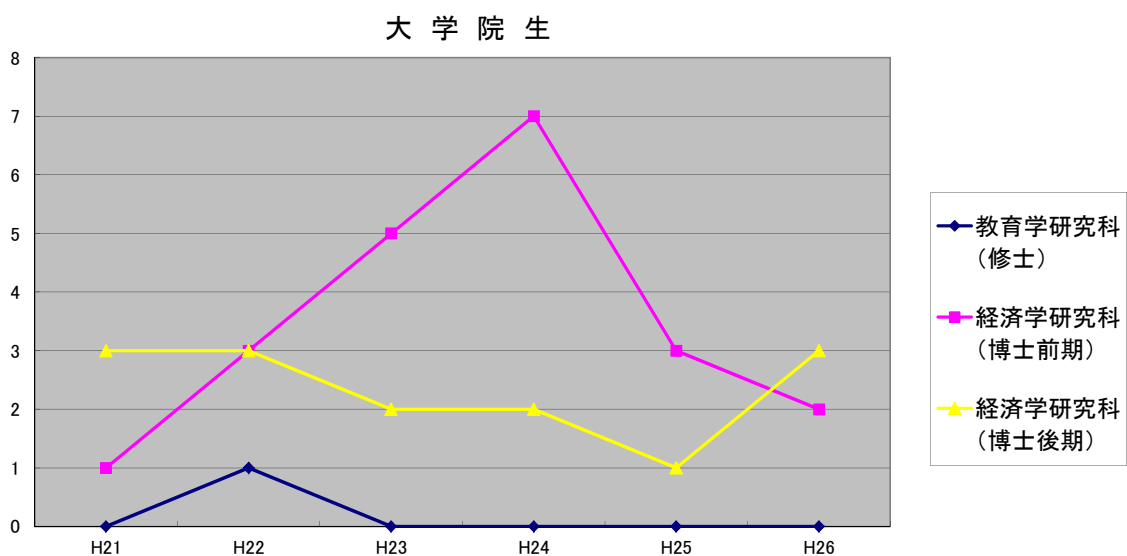
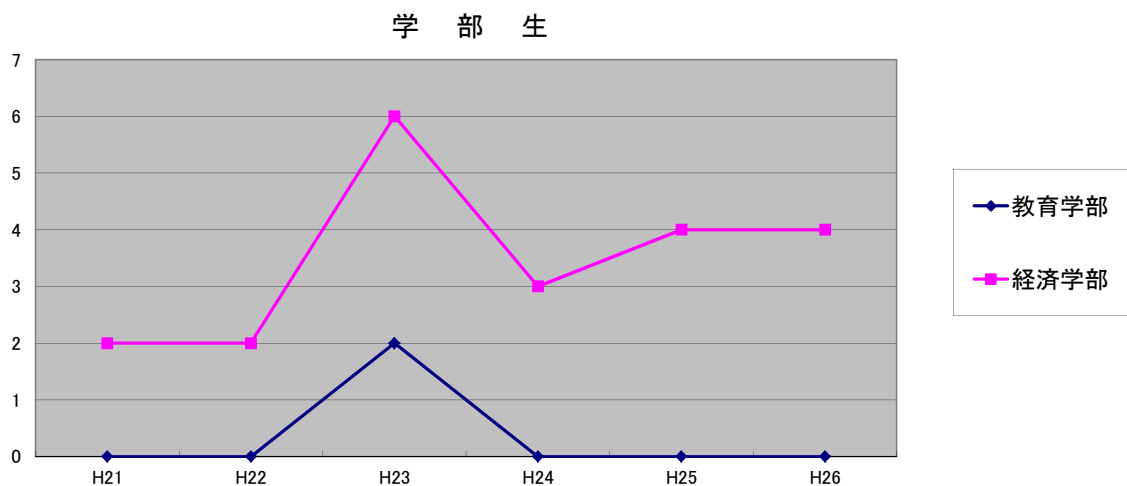


留学生の履修に関する状況

留学生の留年状況

	教育学部	経済学部	小計	教育学研究科 (修士)	経済学研究科 (博士前期)	経済学研究科 (博士後期)	小計	合計
平成21年度	0	2	2	0	1	3	3	6
平成22年度	0	2	2	1	3	3	4	9
平成23年度	2	6	8	0	5	2	7	15
平成24年度	0	3	3	0	7	2	9	12
平成25年度	0	4	4	0	3	1	7	8
平成26年度	0	4	4	0	2	3	5	9



滋賀大学の日本語科目実施状況

1. 滋賀大学日本語コースの概要

滋賀大学には大きく分けて3種類の日本語科目がある。

①学部が実施する日本語授業(単位付・通年)：

経済学部は週4コマ(2015年度からは5コマ)、教育学部は週2コマ

②経済学研究科が実施する日本語授業(単位付・通年)：週3コマ

③国際センターが実施する日本語補講(単位なし・通年)(=SUi補講)：

週21コマ(うち1コマは、彦根駅前の滋賀県立大学サテライトで週に1コマ開講している、彦根3大学連携日本語講座(科目名は「学術日本語の基礎」)である)

あわせて週31コマの日本語授業を、専任1名、非常勤6名(うち1名は非常勤委嘱をしない国際センター契約講師)の体制で運営している。

2. 滋賀大学日本語コースの科目実施状況(2014年度実績)

2-1 開講科目一覧

		科目名	大津	彦根
学部実施科目		日本語Ⅰ/Ⅱ	〇〇	
		日本語Ⅲ/Ⅳ	〇〇	
		日本語ⅠaH/ⅠbH☆		〇〇
		日本語ⅠaA/ⅠbA☆		〇〇
		日本語アカデミック・コミュニケーションⅠ/Ⅱ		〇〇
		日本語で学ぶ日本の社会と経済Ⅰ/Ⅱ		〇〇
経済学研究科実施科目		ビジネス日本語実践Ⅰ/Ⅱ☆		〇〇
		日本語プレゼンテーションⅠ・Ⅱ		〇〇
		アカデミック・リーディング		〇
		アカデミック・ライティング		〇
SUi 補 講	BASIC 基礎コース (主に交換留学生対象)	BASICⅠ 入門(2)	〇	
		BASICⅡ 初級(2～3)	〇	〇
		BASICⅢ 初中級(2～3)	〇〇	〇
		BASICⅣ 文字(1)	〇〇	〇〇
	ACADEMIC-Elementary 学術日本語初級コース	学術日本語の基礎		〇〇
		初級から中級への日本語文法	〇	〇
	ACADEMIC-INTERMEDIATE 学術日本語中級コース	ニュースリーディング		〇〇
		レクチャーリスニング	〇	〇
		レポートライティングの基礎		〇〇
		日本語能力試験対策	〇〇	〇〇
	ACTIVITY 活動コース (レベルを問わず参加可能)	敬語・コミュニケーション		〇
		日本文化理解	〇〇	〇〇
		ドラマで学ぶ日本語	〇	〇

*〇〇は春秋開講を意味する。カッコ内数字は週当たりコマ数、無表記は週1コマ

2-2 履修状況

2014 年度の数値で、SUi 日本語コースの修了者数は科目重複履修者を含まないのべ人数で以下の通りであった。実際にはこのうち半数以上の学生が複数科目を履修しているため、実際の受講者数は半数以下となる。なお、大津の履修者数が、留学生数に比して多いのは、大津キャンパスには交換留学生が多く、彼らは専門科目受講への拘束が比較的に少ないため、日本語学習に集中できる状態だからである。

春学期	彦根 89 人	学部 4 科目	44 人
		大学院 3 科目	19 人
		補講 9 科目	26 人 *うち滋賀県立大生 5 名
	大津 15 人	学部単位付 2 科目	4 人
		補講 6 科目	11 人
秋学期	彦根 101 人	学部 4 科目	44 人
		大学院 3 科目	10 人
		補講 9 科目	47 人* うち滋賀県立大生 12 名
	大津 40 人	学部単位付 2 科目	8 人
		補講 7 科目	32 人

2-3 SUi 補講科目の個別状況

・基礎コース（ベーシック）

科目等履修生や交換留学生などで、日本語能力が中級以下、講義理解の困難な状況にある者を対象にした初級コースである。授業はティームティーチングによって実施される。教材としては「みんなの日本語」を使用。

・学術日本語（初・中級）コース（アカデミック・エレメンタリー/インターメディエイト）

学部生や研究生が、大学での講義理解や研究活動を円滑に進め、周辺のリソースから情報を取りいれやすくなることを目指して実施されている。初級段階の学習を終えていることが受講条件である。

・活動型コース（アクティビティ）

初級後半以上のレベルの学習者であれば参加することができ、ピアラーニング、体験型学習を取り入れて、学習者の自律的学習を促進する形態を取っている。活動型日本語コースのもう一つの特徴は、「日本社会との接点の中で生きた日本語を学ぶこと」である。そのため校外の見学のほか、インタビューセッション、視聴覚教材視聴などを積極的に行い、学習者の大学・地域・日本社会への円滑な適応の支援を行う努力をしている。2014 年度の校外活動の例として、彦根では、地域の商店街見学活動、大津では、海外協定校からの訪問者に日本での生活を紹介する活動や、近隣施設の見学などを行った。

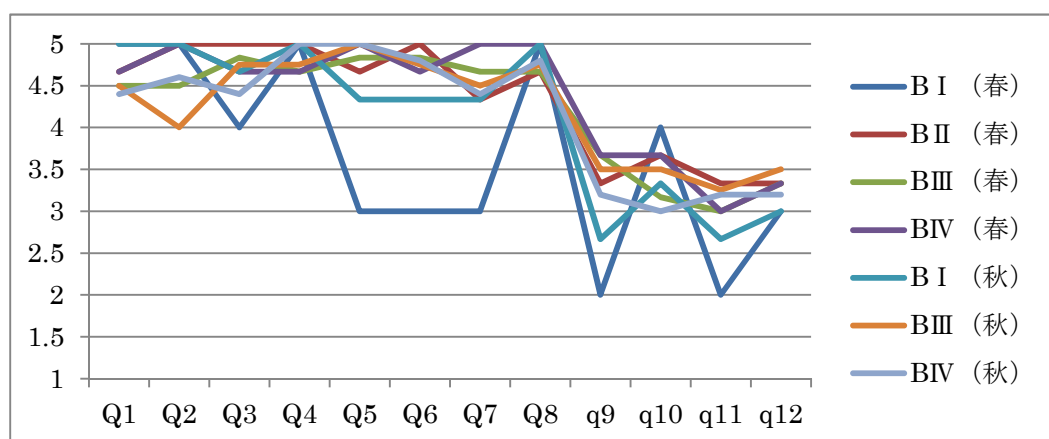
3. 受講生の意識

3-1 コース別の授業評価

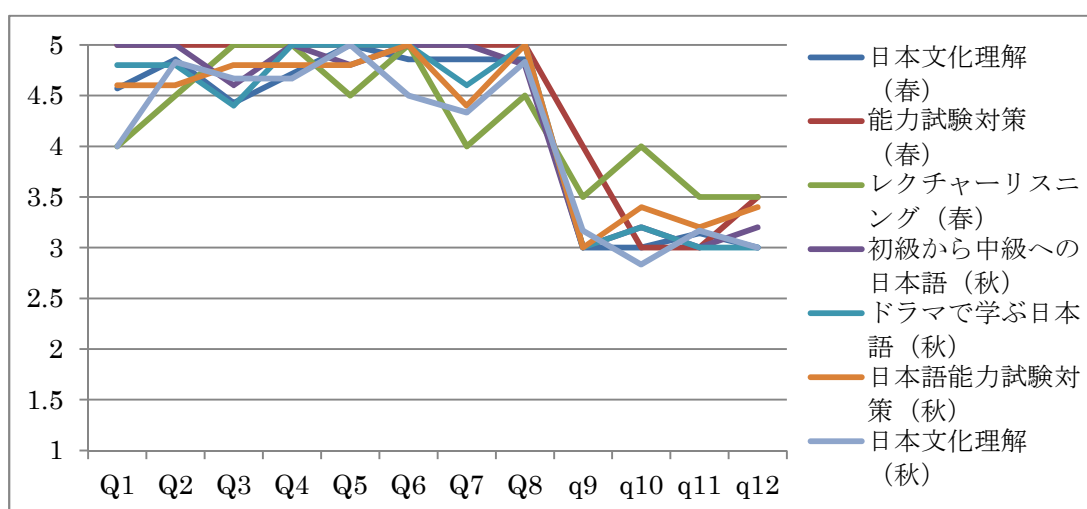
SUi 補講と、経済学研究科実施科目については、学部実施調査がないため別途、2014 年春学期、秋学期終了時、それぞれ授業評価アンケートを実施した。授業評価の結果は下記の通りである。質問のうち、Q1-Q8 は、5 点を最高とする 5 段階の満足度評価であり q9-q12

が、3点を最適とする授業評価である。回答は任意であったため、受講生全員の回答は得られていないが、全体として受講者の授業満足度は高いとみなせよう。

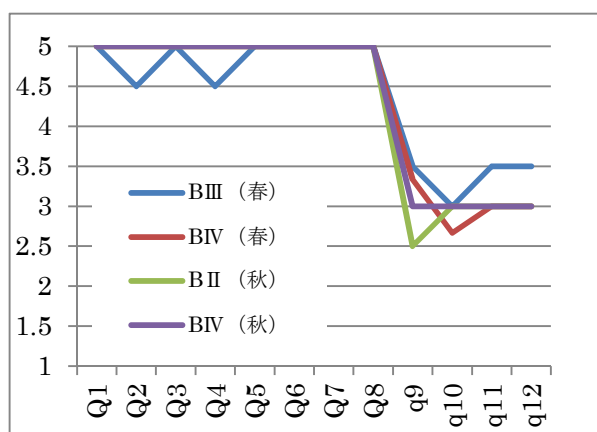
- 質問：Q1. この授業をうけて日本語は前よりじょうずになった
 Q2. この授業のテーマや内容はおもしろかった
 Q3. たくさん練習をすることができた
 Q4. 役に立つ 知識をたくさん学んだ
 Q5. 先生の説明はていねいでわかりやすかった
 Q6. 先生は宿題のチェックをていねいにしていた
 Q7. この授業の目的や、評価方法はわかりやすかった
 Q8. クラスのふんいきは良く、気持ちよく勉強できた
 q9. この授業の速さはどうでしたか
 q10. この授業の難しさはどうでしたか
 q11. この授業中の練習の量はどうか
 q12. 宿題の量はどうか



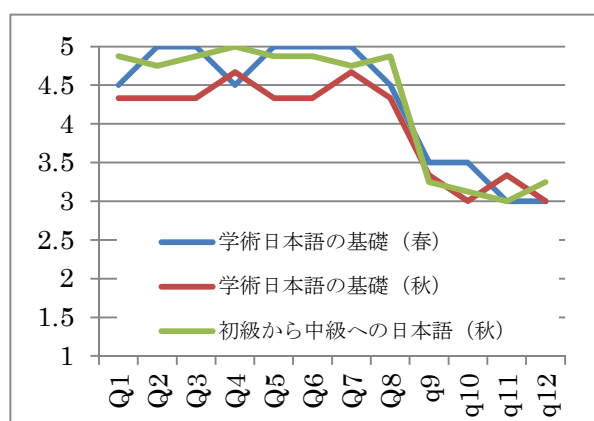
ベーシックコース授業評価 (大津)



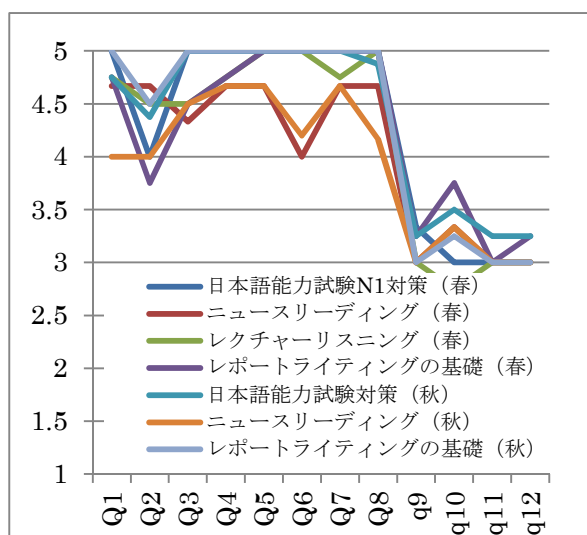
アクティビティ・アカデミックコース授業評価 (大津)



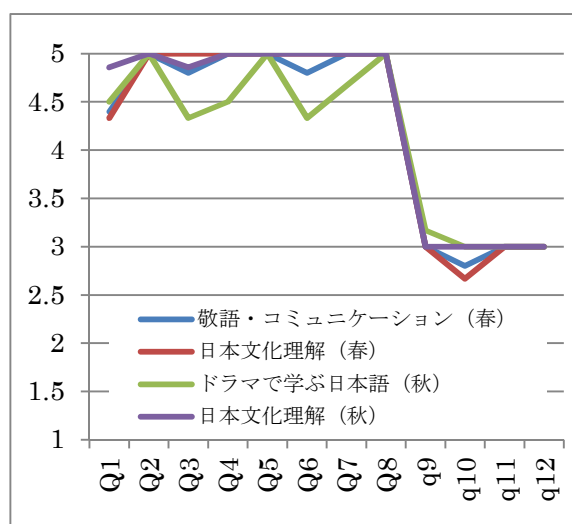
ベーシック(基礎)コース授業評価(彦根)



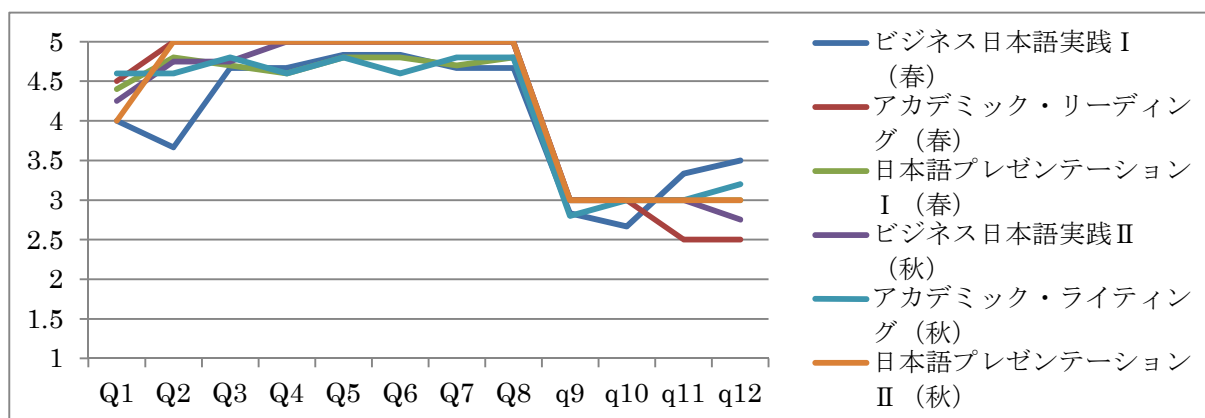
アカデミックエレメンタリーコース授業
評価 (彦根)



アカデミックインターメディアートコー
ス(学術日本語中級)授業評価 (彦根)



アクティビティコース授業評価 (彦根)

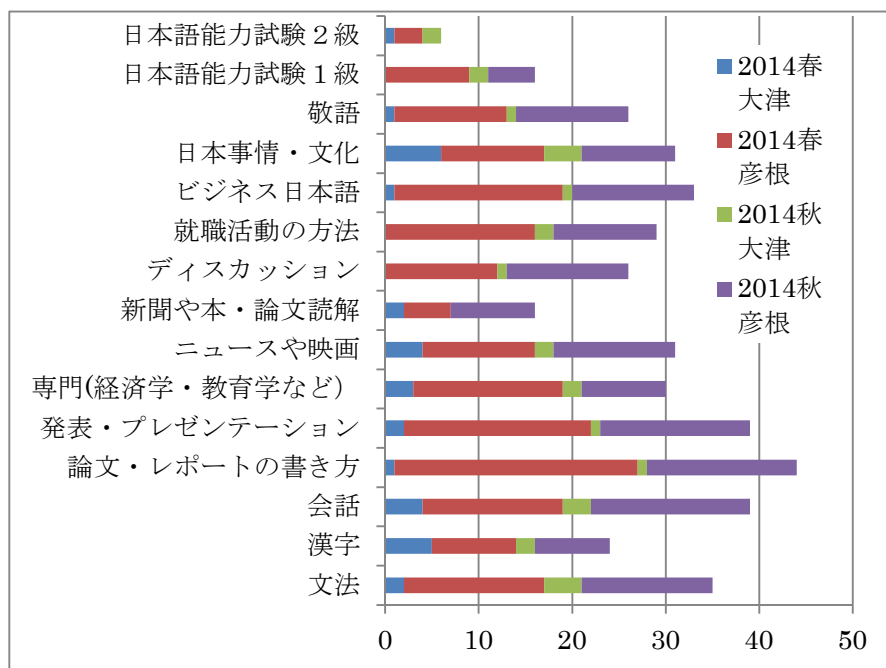


経済学研究科実施科目授業評価 (彦根)

3-2 受講生の日本語学習についての考え方

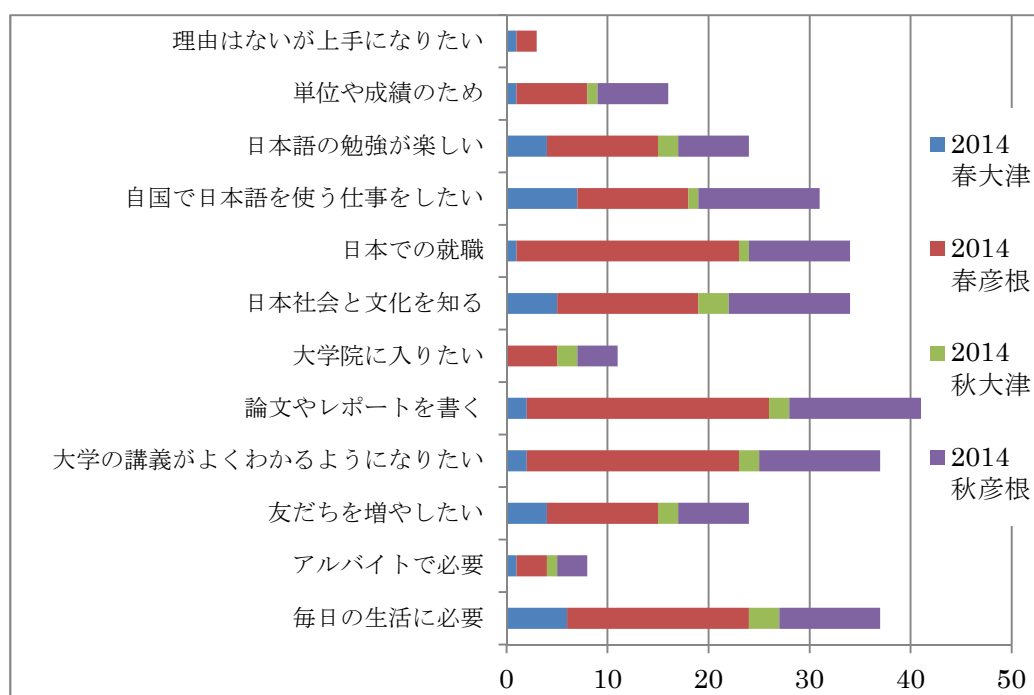
授業評価に加えて、受講生の日本語学習についての考え方を知るため、春学期と秋学期の2回アンケート調査を実施した。回答者数は、春学期大津が8名、彦根37名、秋学期大津が4名、彦根27名でのべ76名である。

●これからの学習希望領域(複数回答)



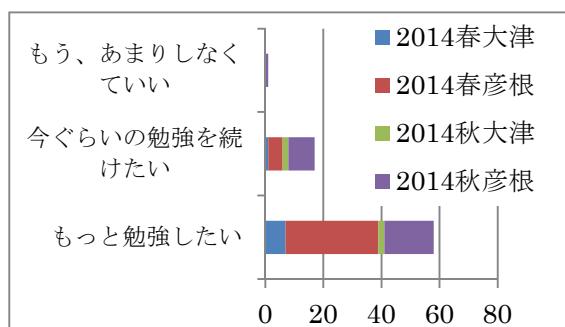
論文/レポート作成」「発表・プレゼンテーション」などの学術領域への希望と並び、「会話」、「文法」、「日本事情・文化」など基礎的な領域への希望も強い。特に大津では後者の志向が高い。

●日本語学習の目的(複数回答集計)

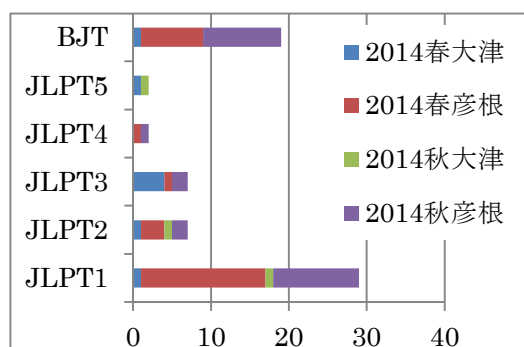


総じて日々の生活や人間関係構築、大学での学問を進める上での必要性を感じているが、正規生の多い彦根では、「日本で就職する」「自国で日本語を使う職につく」など、将来を見越しての学習ニーズが高い。

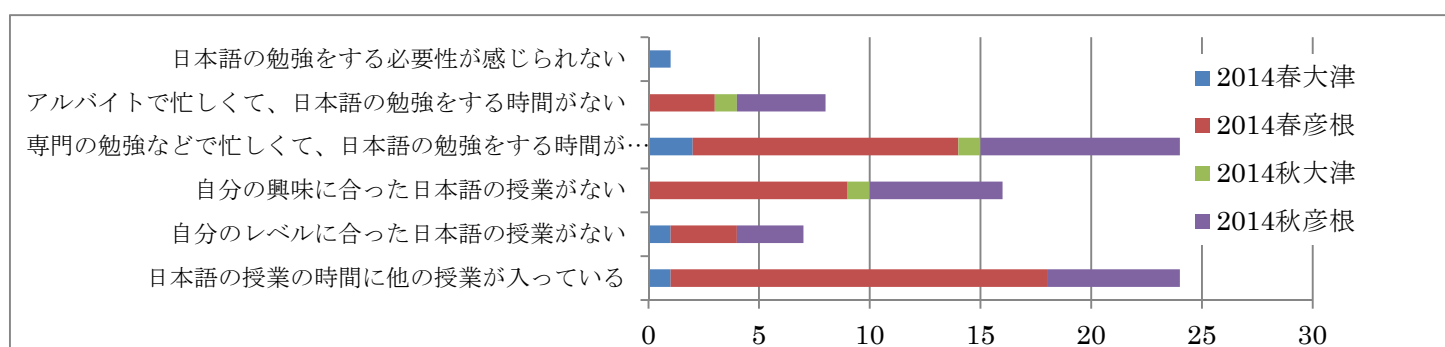
●これからの日本語学習



●受験を検討しているテスト(複数回答)



●日本語授業受講上の問題点(複数回答)



76人中58人が「もっと日本語を勉強したい」と答えている。日本語学習希望は高いが、履修上の問題も多いことがわかる。彦根では、「日本語の授業の時間に、ほかの専門の授業が入っている」「専門の勉強などで忙しくて、日本語の勉強をする時間がない」という声も多い。本来日本語の力に不足があれば専門の学習にも支障が生じるはずであるが、そうした矛盾を留学生は抱えながら専門の学習を優先しているという状況が見てとれる。

4. まとめと課題

滋賀大学留学生の日本語学習の目的は、「大学生活の支援」と「大学での学習・研究の支援」が、大津・彦根両キャンパス共通のものとしてまずある。特に彦根では日本での進学、就職を意識した、専門的な日本語教育の必要性もあることが、今回の調査結果からも確認できる。一方大津では短期の日本滞在を充実したものとする、日本理解を中心としたコースへの要望が多い。ただ、経年変化を見ると、大津の学生でも「自国で日本語を使って就職する」という声も微増傾向にあり、滋賀大学の留学生が求める日本語レベルも、少しずつ上昇する傾向がある。開講科目数、開講可能時間の制限などの問題点については、継続的に取り組む努力が必要ではあるが、今後も可能な限り、留学生の要望に応えられるよう、SUi日本語コースの改善を図っていく予定である。